

生物多様性はままつ戦略の改定について

1 改定の趣旨

「生物多様性はままつ戦略」策定から 5 年が経過し、これまでの取組みの効果・課題を検証し、状況変化に対応した見直しを行うもの

2 改定に向けた取組み

- ・環境審議会「生物多様性はままつ戦略改定部会」で審議（6 月・10 月・2 月）
- ・市民アンケート実施（6 月）
- ・タウンミーティング実施（10 月）

⇒新たな課題：外来生物の生息域の拡大、生物多様性に対する低い認知度・理解度等
⇒戦略の改定（平成 30 年 4 月予定）



3 生物多様性はままつ戦略改定部会名簿

1	横浜創英大学 こども教育学部 教授 【部会長】	田中 浩之
2	静岡県シェアリングネイチャー協会 理事長	荒巻 太枝子
3	浜松市消費者団体連絡会 会長	野中 正子
4	静岡大学 地域創造学環 教授	水谷 洋一
5	静岡大学 教育学部 講師	加藤 英明
6	株式会社エフ・シー・シー 環境安全企画室 環境安全企画ブロック ブロックリーダー	中村 彰子
7	静岡文化芸術大学 文化政策学部 准教授	船戸 修一
8	遠州自然研究会 事務局長	宮崎 一夫
9	【オブザーバー】静岡県くらし・環境部環境局自然保護課	

※敬称略

生物多様性はままつ戦略改定(案)の概要

【第1章】生物多様性とは 《変更なし》

- 1 生物多様性の重要性
- 2 生物多様性の恵み(サービス)
- 3 生物多様性の危機

【第2章】浜松市の生物多様性の現状 《変更なし》

- 1 市の自然環境
- 2 市内の希少種
- 3 市内の外来生物
- 4 注目すべき場所

【第3章】効果検証と今後の課題 《新規》

1 取組みの効果検証

・2013戦略:5つの重点プロジェクト
評価と新たな課題

2 指標の達成状況

・43項目からなる戦略の進捗管理指標の達成状況
目標値 57.1% 実績値 58.1%

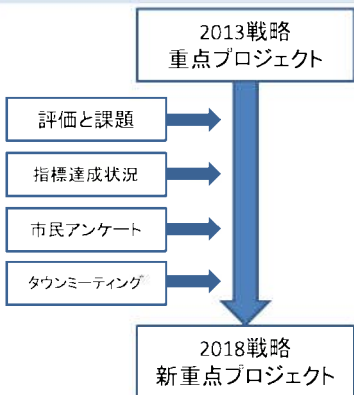
3 市民の生物多様性に関する意識

(1)市民アンケート (2)タウンミーティング

4 新重点プロジェクトの方針

1~3を踏まえた新しい3つの方針

- ①生きものへの興味を引き出す取組み
- ②市民協働で外来生物問題を解決する取組み
- ③環境保全活動を広げる取組み



◆市民アンケート

調査対象:浜松市民2,000人(無作為抽出)
調査時期:平成29年6~7月
調査方法:郵送による送付・収集
回答数:731回答(回答率 36.6%)

◆タウンミーティング

実施対象:浜松市民及び市民団体
実施時期:平成29年10月21日、28日
実施方法:ワークショップ形式による意見聴取
意見数:57意見

【第4章】改定戦略の目指すべき将来像と基本方針 《変更なし》

1 目指すべき将来像

「海から山まで多様な生きものの人々の暮らしが共存する都市 ~はままつ~」

2 基本方針

将来像を実現するための3つの基本方針

- ① 多様な生きものすみかをしっかり守っていきます
- ② 地域の生物多様性を守るための仕組みをつくります
- ③ 豊かな自然と恵みを将来につなぐための人を増やしていきます



【第5章】各主体の役割と行動計画 《一部変更》

1 各主体の役割

・市、市民、市民団体、事業者、専門家の役割

2 市の行動計画 《変更》

・3つの基本方針に対応する7つの取組み、39の事業(2つの新規事業を含む)

3 市内の取組み

・市内で活躍する市民団体や事業者の取組みを紹介

4 新重点プロジェクト 《変更》

・第3章の重点的な取組み方針を具体化した3つの新重点プロジェクト

~新重点プロジェクト~

①市民が自ら調べるまち

スマートフォン等を使った市民参加型の生きもの調査

②市民が自ら守るまち

市民と協働して行う特定外来生物(クリハラリス)の対策

③市民・事業者・行政がつながるまち

活動団体と事業者をつなぐ「浜松市環境パートナーシップ(仮称)」の構築

【第6章】推進体制と進行管理 《一部変更》

1 推進体制

2 進行管理 《変更》

戦略の進捗管理を行う7つの新たな指標(別紙参照)

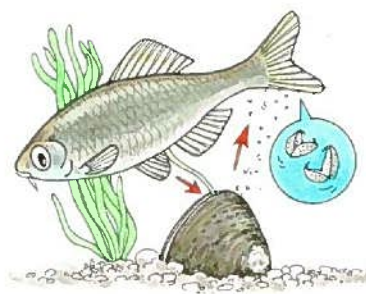
《7つの新たな指標》

取組み	指標	年度		
		2018～2021	2022	2050
①生きものの生息・生育場所の保全	ヤリタナゴの生息数 (現状：64個体 【成魚5当歳魚59】)	維持又は増加	次期戦略の策定	海から山まで、 多様な生きものと人々のくらしが共存する都市
②持続可能な農林水産業の促進と良好な生態系の保全	多面的機能支払交付金※1の交付面積 (現状： 農地維持 3,187ha 資源向上（共同） 2,718ha 資源向上（長寿命化） 4,247ha)	10%増加		
③都市における緑地・水域の保全と連結・拡充	緑地保全面積※2 (現状：1,373ha)	維持又は増加		
④様々な首都との円滑な連携、活動支援	浜松市環境パートナーシップ（仮称）の協定を締結した件数 (現状：0件)	3件締結		
⑤生物多様性に関する情報の収集・蓄積・活用	市民参加型調査に参加した人数 (現状：0人/年)	300人/年 参加		
⑥地域の生態系を支える人づくり	環境学習指導者による生物多様性保全学習会の開催・参加回数 (現状：1,803回)	10%増加		
⑦生物多様性の大切さを理解し、行動する市民の育成	「生物多様性」の理解度 *言葉も意味も知っている (現状：30.4%)	60%超達成		

※1 農業・農村は、国土の保全、水源の涵養、自然環境の保全などの多面的機能を有しており、この機能の維持・発揮を図るための地域の共同活動に対する支援に係る交付金を指す。

※2 特別緑地保全地区、風致地区、生産緑地地区、保存樹・保存樹林、市民の森の面積を合計したもの。

注 目標については各年度で見直しができるものとする。



ヤリタナゴ